

2012/10/17

## 柏の景気情報（平成24年9月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成24年9月分）

○ 調査期間 : 平成24年9月24日 ~ 9月28日

○ 調査対象 : 柏市内161事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	161	92	57.1%
建設	45	25	55.6%
製造	35	17	48.6%
卸・小売	44	34	77.3%
サービス	37	16	43.2%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

## 【平成24年9月の調査結果のポイント】

### ◀ 業況DIは横ばい 残暑の影響で売上減少 ▶

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲36.9(前月水準▲38.0)となり、マイナス幅が1.1ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲18.7(同▲29.4)、製造業▲23.5(同▲26.3)、卸小売業▲58.8(同▲60.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲28.0(同▲24.1)である。

【建設業】からは、「柏は被災地ということで、復興支援住宅エコポイント10月末締切を活用して耐震改修、断熱改修工事を狙っていききたい(一般土木建築工事業)」、「9月は上半期末という事もあり忙しく仕事があったが月末になっても来月の見込みが不足している状態。11月下旬からの見込みはあるが、それまではないと今年は極端な受注状況。震災関係は落ち着いてきており依然として新築が少ないように思われる(石工れんがタイルブロック工事業)」、「一気に涼しくなり年末の大掃除に向けて畳裏返しや張り替え工事の注文が増えてくれることを祈ります(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「銀行も苦しいのかも知れないが会社の融資枠を縮小して個人の金利を高く見積もり個人融資に誘導している感がある(印刷業)」、「輸出の減少がみられるとともに円高による値引き要請が続いている(一般産業用機械・装置製造業)」、「8月以降仕事が多く出てきている。短納期が多いが年末までは仕事がありそうです(建築用・建設用金属製品製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは「震災後は顧客のオール電化移行が収まっていたが、調査の結果当社の顧客数減少が今年も多く、やはりライバルは同業他社よりもオール電化であるといえるのではないかと。7月を底に値上がりしていたLPガス仕入単価が横ばいになったが収益見直しに大きな狂いが生じ経営者を落胆させている。一部大手他社は10月から値上げとの情報もあるが、当社はまだ価格はいじらず頑張るつもり(燃料小売業)」、「温浴事業の水光熱費削減の為改修工事を実施し電気ガスの使用量は削減できたが仕入単価が大幅に上昇したため経費的には補えきれなかった(公衆浴場業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「8～9月2カ月連続で前年割れであった。次月から12月商戦の企画を他チェーン店などは既に打ち出しているのを知り、値段だけではないと思いますが色々と考えさせられる(酒場・ビヤホール)」、「個人需要は夏が終わって前年同期比10ポイントほど伸びず。法人需要は最近の中国情勢、韓国情勢の影響が出始めてきた(旅行業)」、「お客様が少しずつですが増えています。ただ土地の下落が続いており、お客様の購買意欲が低い状態です。やはり放射能汚染の風評被害が影響しています(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

#### ◎残暑

各業種から、「残暑が長引き売上が伸びたが電気料金の値上がりの影響が出始めた。省エネ対応の器具・工事で売上を伸ばす(電気工事業)」、「猛暑で人出が少なかったうえ、「夏」が予想以上に長かった。このため秋物の出足が鈍く、短期間では取り戻しが難しい(その他の各種商品小売業)」、「とても暑い9月でした。街を歩く人もまばらだったような、暑い夏が終わり涼しくなり始めると例年忙しくなる(菓子・パン小売業)」、「暦通りの季節感になかなかならないと思っていたら彼岸の中日を過ぎたあたりより冷房いらずの気温になり、食欲の秋と望みたいところだが、現状は野菜においては引き続き入荷減、単価安、果実は入荷減高値取引で推移しています(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

#### ◎売上減少

各業種から、「秋物残暑により出足不調。早くも秋物処分に腐心しているが、例年業界では8月より9月の方が売上が伸びない店が多くなってきている。8月セールで売り上げが伸び9月は売上が出ずらい(婦人・子供服小売業)」、「9月度は、残暑が厳しかったことに加え、例年より先物買い傾向が薄く、ジャストシーズン購入傾向が多くみられたことから秋物の動きが鈍く苦戦した。中旬以降は台風の影響から天候が不安定だったことから、入店客数は伸び悩んだものの、気温の低下にともない秋物商材に動きがみられ売上高は若干盛り返した(その他の各種商品小売業)」、「9月前半は昨年より残暑が厳しく売上に影響。後半は若干涼しくなり持ち直しましたが1カ月トータルで昨年よりは売上減少です(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

#### ◎先行き不安

各業種から、「仕事の見通しはあるものの材料との兼ね合いがかなり厳しい状況で、同業者他業者とともに仕事をとるしかない。他社も先行き不安だと話しており、利益を出す工事よりも赤字にならないようにするしかない(その他の職別工事業)」、「残暑が長く続き客足減少後半涼しくなるも、天候変わりやすく人の流れも少ない、今後は政局がどうなるのか不安材料多く消費税の段階的な増税も価格表示に費用負担が心配(時計・眼鏡・光学機械小売業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
4月	▲26.2	▲20.6	▲22.7	▲41.1	▲11.1
5月	▲28.4	▲24.1	▲17.6	▲35.4	▲33.3
6月	▲28.8	▲13.3	▲22.2	▲57.5	▲6.2
7月	▲29.8	▲14.2	▲11.7	▲48.5	▲35.2
8月	▲38.0	▲24.1	▲26.3	▲60.0	▲29.4
9月	▲36.9	▲28.0	▲23.5	▲58.8	▲18.7
見通し	▲13.0	▲12.0	▲5.8	▲26.4	△6.2

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成24年9月の業況についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲36.9(前月水準▲38.0)となり、マイナス幅が1.1ポイント縮小した。

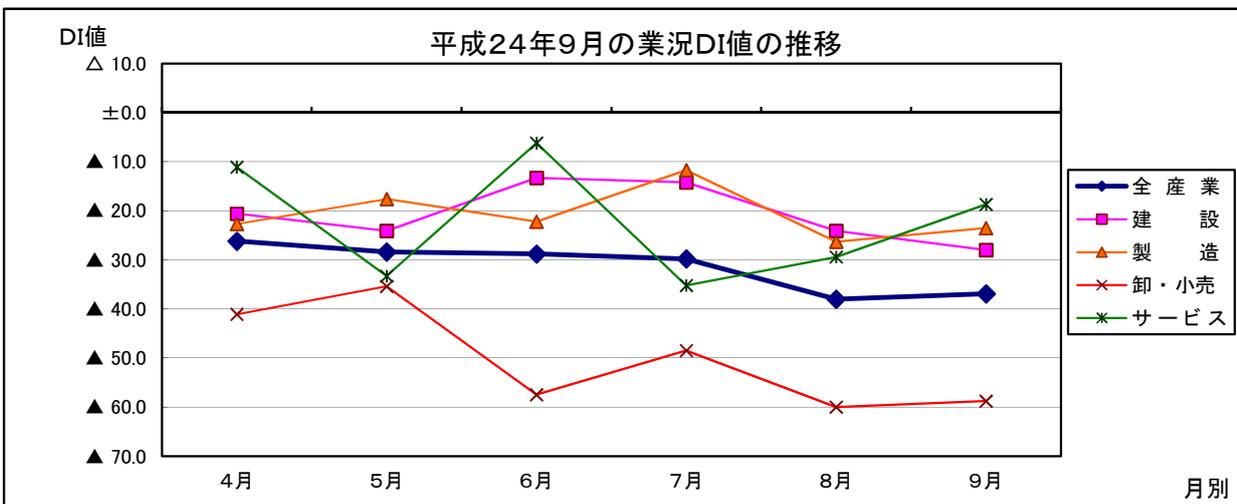
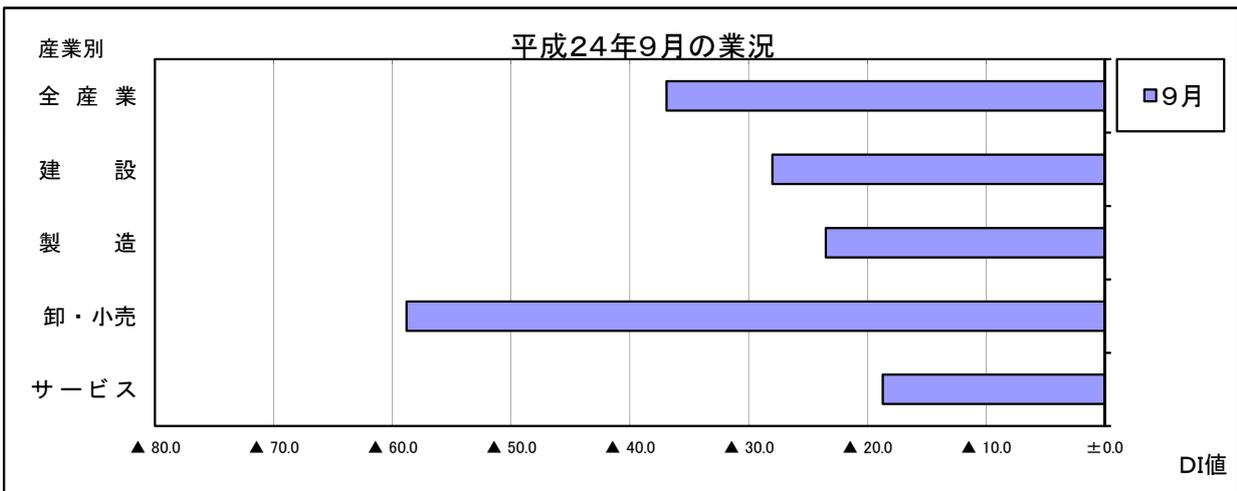
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲18.7(同▲29.4)、製造業▲23.5(同▲26.3)、卸小売業▲58.8(同▲60.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲28.0(同▲24.1)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13.0(前月水準▲19.0)となり、マイナス幅が6.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業6.2(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲12.0(同▲24.1)、製造業▲5.8(同▲10.5)、卸小売業▲26.4(同▲28.5)である。

平成24年9月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲26.2	▲28.4	▲28.8	▲29.8	▲38.0	▲36.9	▲13.0(▲19.0)
建設	▲20.6	▲24.1	▲13.3	▲14.2	▲24.1	▲28.0	▲12.0(▲24.1)
製造	▲22.7	▲17.6	▲22.2	▲11.7	▲26.3	▲23.5	▲5.8(▲10.5)
卸・小売	▲41.1	▲35.4	▲57.5	▲48.5	▲60.0	▲58.8	▲26.4(▲28.5)
サービス	▲11.1	▲33.3	▲6.2	▲35.2	▲29.4	▲18.7	△6.2(±0.0)



【平成24年9月の売上についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲40.2(前月水準▲39.0)となり、マイナス幅が▲1.2ポイント拡大した。

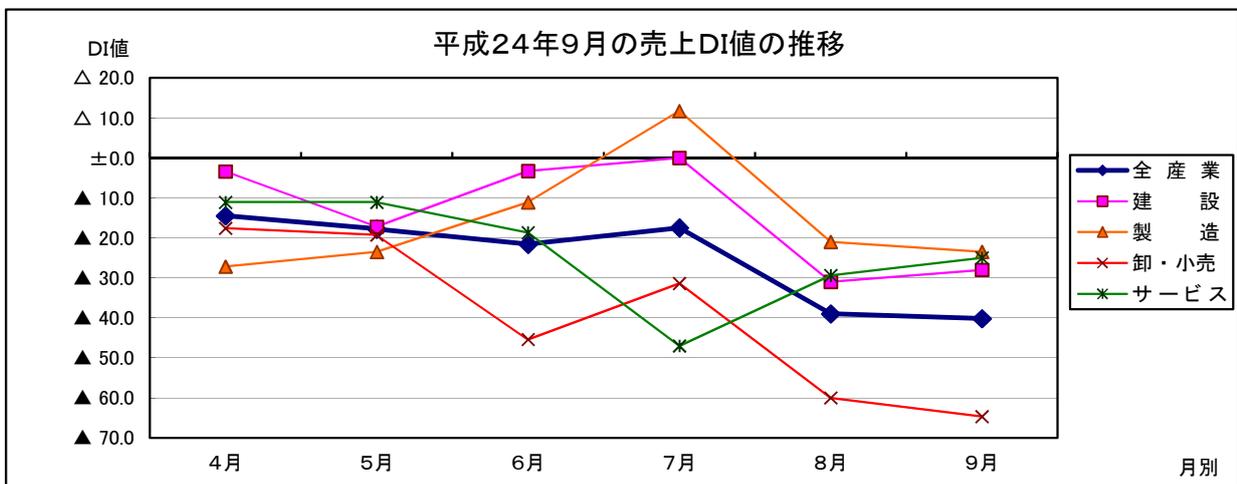
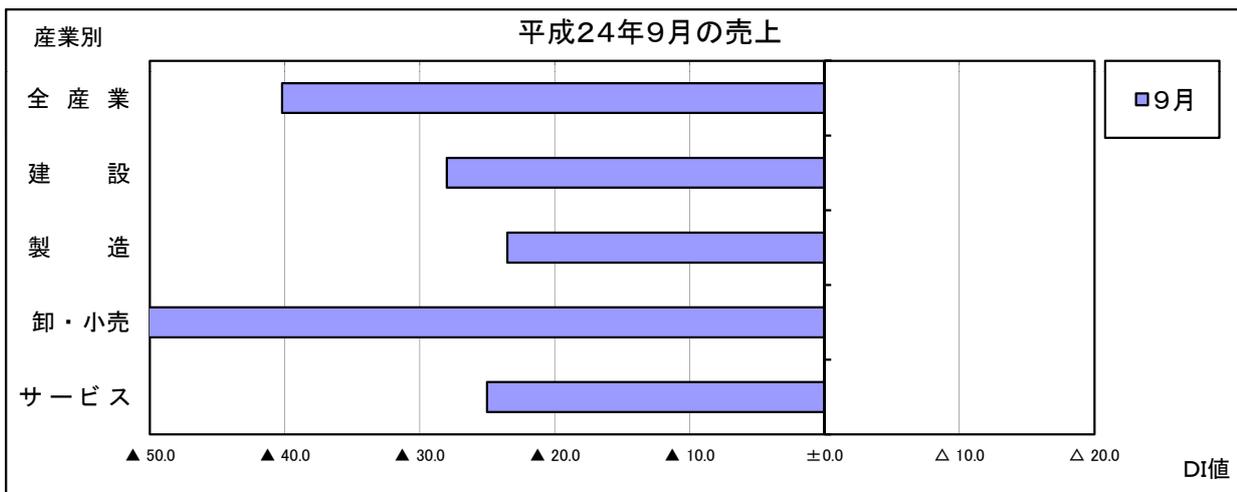
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲25.0(同▲29.4)、建設業▲28.0(同▲31.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲64.7(同▲60.0)、製造業▲23.5(同▲21.0)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲1.0(前月水準▲4.0)となり、マイナス幅が3.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業18.7(同11.7)、製造業5.8(同5.2)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業8.0(同▲3.4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲20.5(同▲17.1)である。

平成24年9月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲14.5	▲17.8	▲21.6	▲17.5	▲39.0	▲40.2	▲1.0(▲4.0)
建設	▲3.4	▲17.2	▲3.3	±0.0	▲31.0	▲28.0	△8.0(▲3.4)
製造	▲27.2	▲23.5	▲11.1	△11.7	▲21.0	▲23.5	△5.8(△5.2)
卸・小売	▲17.6	▲19.3	▲45.4	▲31.4	▲60.0	▲64.7	▲20.5(▲17.1)
サービス	▲11.1	▲11.1	▲18.7	▲47.0	▲29.4	▲25.0	△18.7(△11.7)



【平成24年9月の採算についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲45.6(前月水準▲40.0)となり、マイナス幅が▲5.6ポイント拡大した。

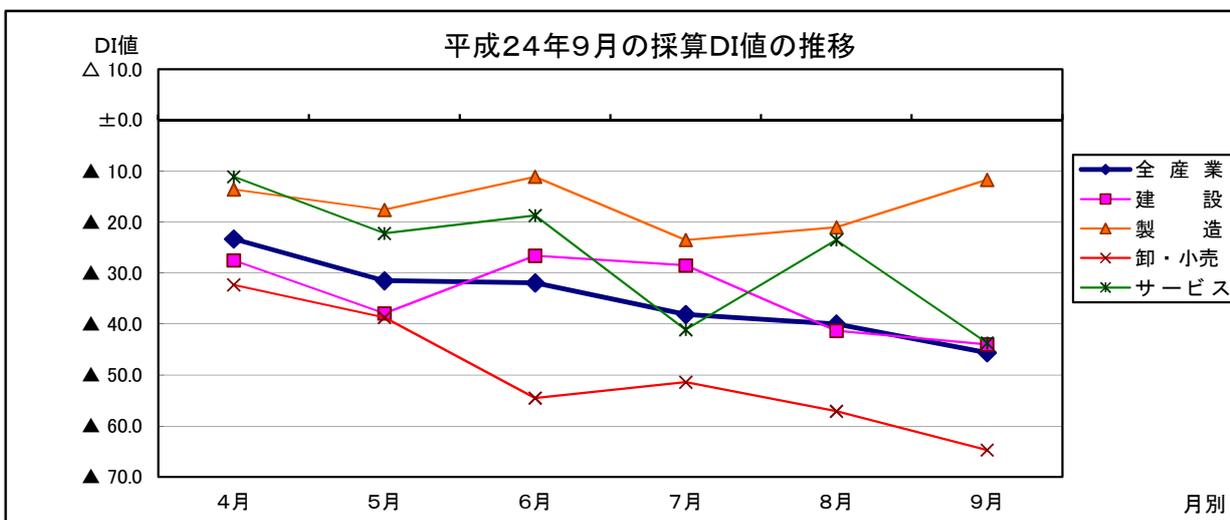
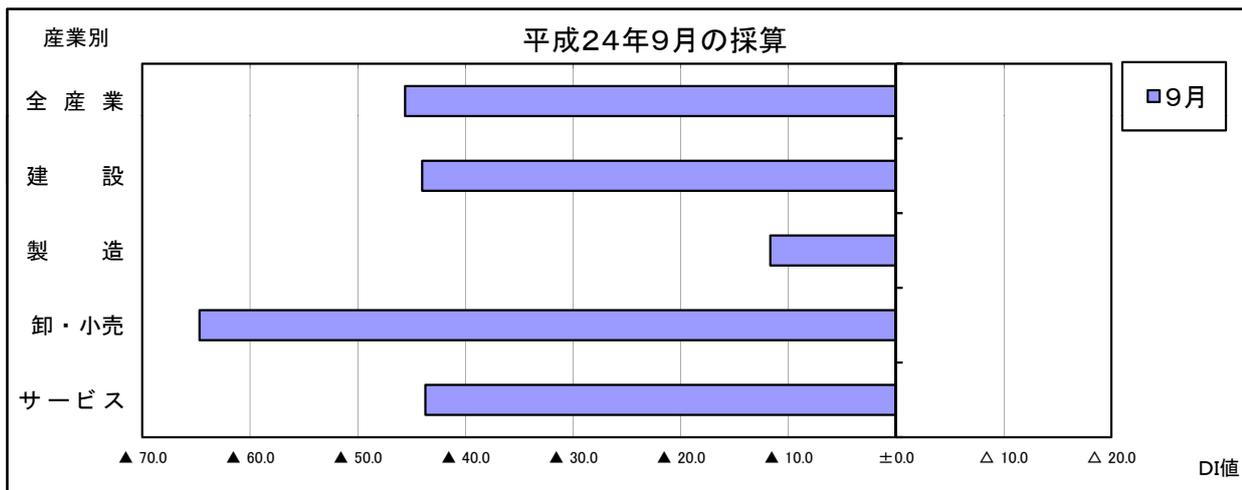
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲11.7(同▲21.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲43.7(同▲23.5)、卸小売業▲64.7(同▲57.1)、建設業▲44.0(同▲41.3)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲20.2ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13.0(前月水準▲12.0)となり、マイナス幅が▲1.0ポイント拡大縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業5.8(同5.2)、サービス業6.2(同5.8)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲20.0(同▲27.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲26.4(同▲17.1)である。

平成24年9月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲23.3	▲31.5	▲31.9	▲38.1	▲40.0	▲45.6	▲13.0(▲12.0)
建設	▲27.5	▲37.9	▲26.6	▲28.5	▲41.3	▲44.0	▲20.0(▲27.5)
製造	▲13.6	▲17.6	▲11.1	▲23.5	▲21.0	▲11.7	△5.8(△5.2)
卸・小売	▲32.3	▲38.7	▲54.5	▲51.4	▲57.1	▲64.7	▲26.4(▲17.1)
サービス	▲11.1	▲22.2	▲18.7	▲41.1	▲23.5	▲43.7	△6.2(△5.8)



【平成24年9月の仕入単価についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲19.5(前月水準▲10.0)となり、マイナス幅が▲9.5ポイント拡大した。

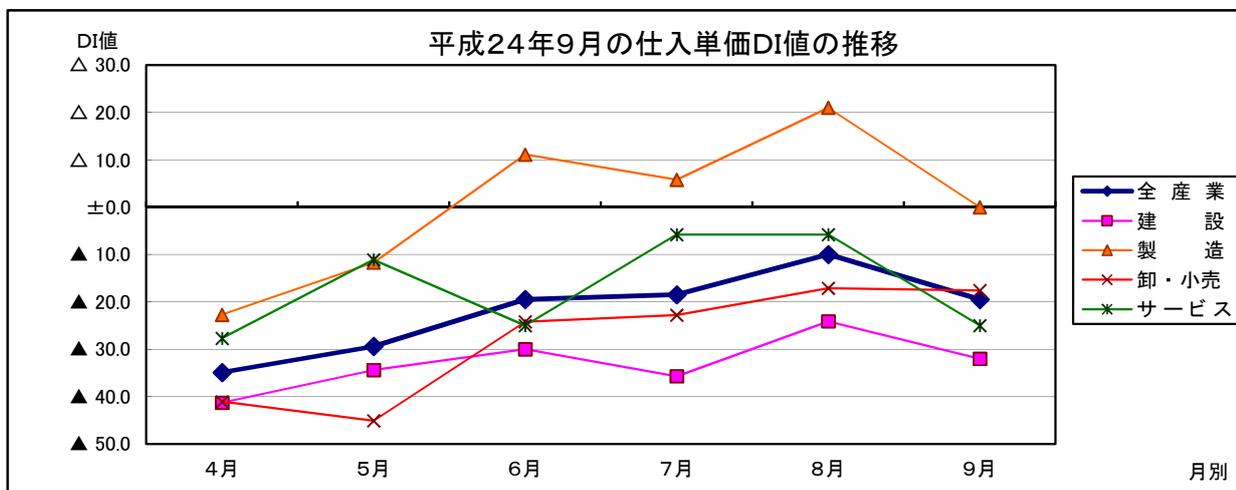
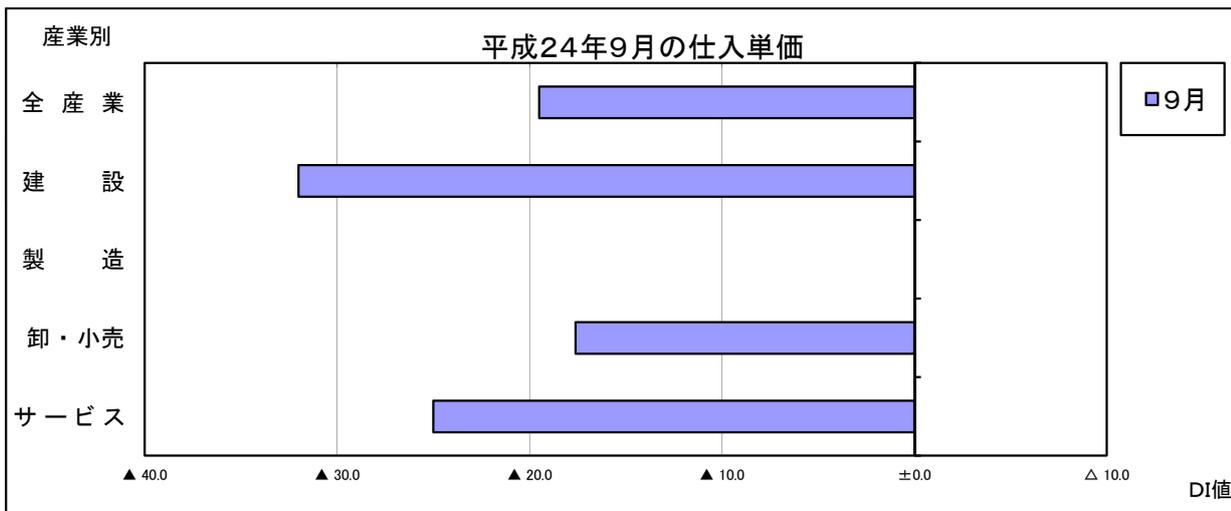
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同21.0)であり、プラス幅が▲21.0ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲25.0(同▲5.8)、建設業▲32.0(同▲24.1)、卸小売業▲17.6(同▲17.1)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲18.4(前月水準▲14.0)となり、マイナス幅が▲4.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲5.8(同▲10.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲28.0(同▲20.6)、サービス業▲12.5(同▲5.8)、卸小売業▲20.5(同▲14.2)である。

平成24年9月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲34.9	▲29.4	▲19.5	▲18.5	▲10.0	▲19.5	▲18.4(▲14.0)
建設	▲41.3	▲34.4	▲30.0	▲35.7	▲24.1	▲32.0	▲28.0(▲20.6)
製造	▲22.7	▲11.7	△11.1	△5.8	△21.0	±0.0	▲5.8(▲10.5)
卸・小売	▲41.1	▲45.1	▲24.2	▲22.8	▲17.1	▲17.6	▲20.5(▲14.2)
サービス	▲27.7	▲11.1	▲25.0	▲5.8	▲5.8	▲25.0	▲12.5(▲5.8)



【平成24年9月の従業員についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲4.3(前月水準▲2.0)となり、マイナス幅が▲2.3ポイント拡大した。

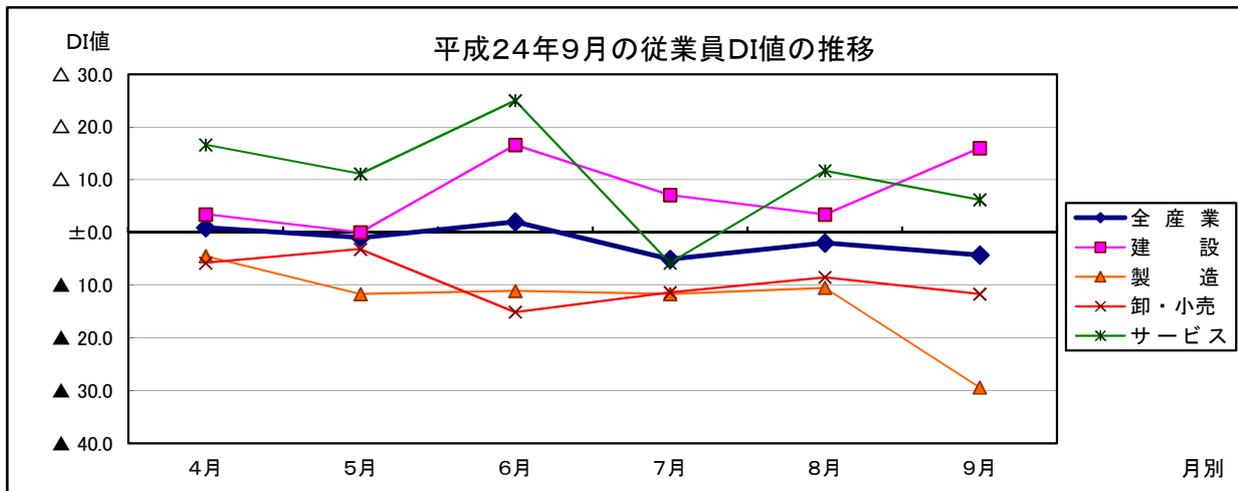
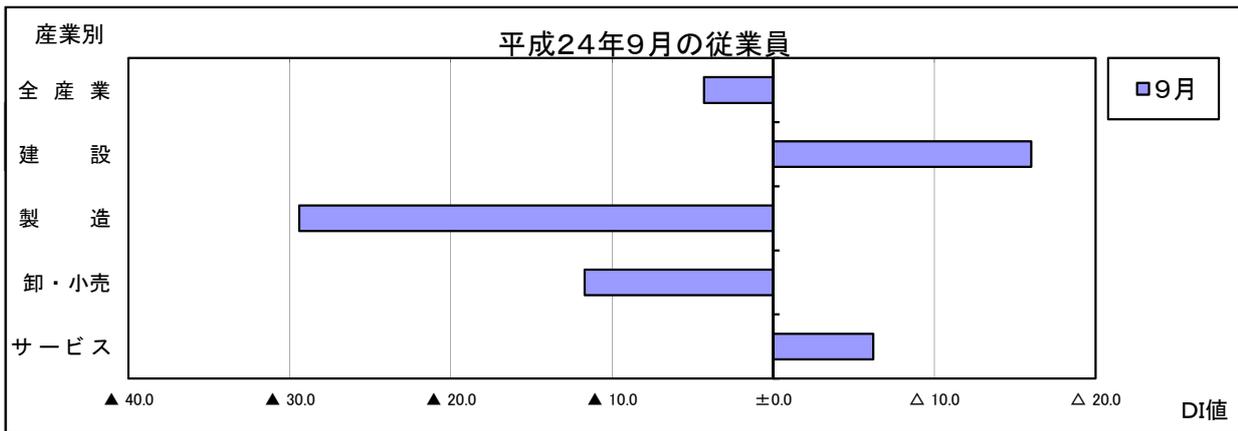
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業16.0(同3.4)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業6.2(同11.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲29.4(同▲10.5)、卸小売業▲11.7(同▲8.5)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、2.1(前月水準2.0)となり、プラス幅が0.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業20.0(同6.8)、サービス業18.7(同11.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲23.5(同▲5.2)、卸小売業▲5.8(同▲2.8)である。

平成24年9月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	△0.9	▲1.0	△2.0	▲5.1	▲2.0	▲4.3	△2.1(△2.0)
建設	△3.4	±0.0	△16.6	△7.1	△3.4	△16.0	△20.0(△6.8)
製造	▲4.5	▲11.7	▲11.1	▲11.7	▲10.5	▲29.4	▲23.5(▲5.2)
卸・小売	▲5.8	▲3.2	▲15.1	▲11.4	▲8.5	▲11.7	▲5.8(▲2.8)
サービス	△16.6	△11.1	△25.0	▲5.8	△11.7	△6.2	△18.7(△11.7)



【平成24年9月の資金繰りについての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.1(前月水準▲11.0)となり、マイナス幅が▲3.1ポイント拡大した。

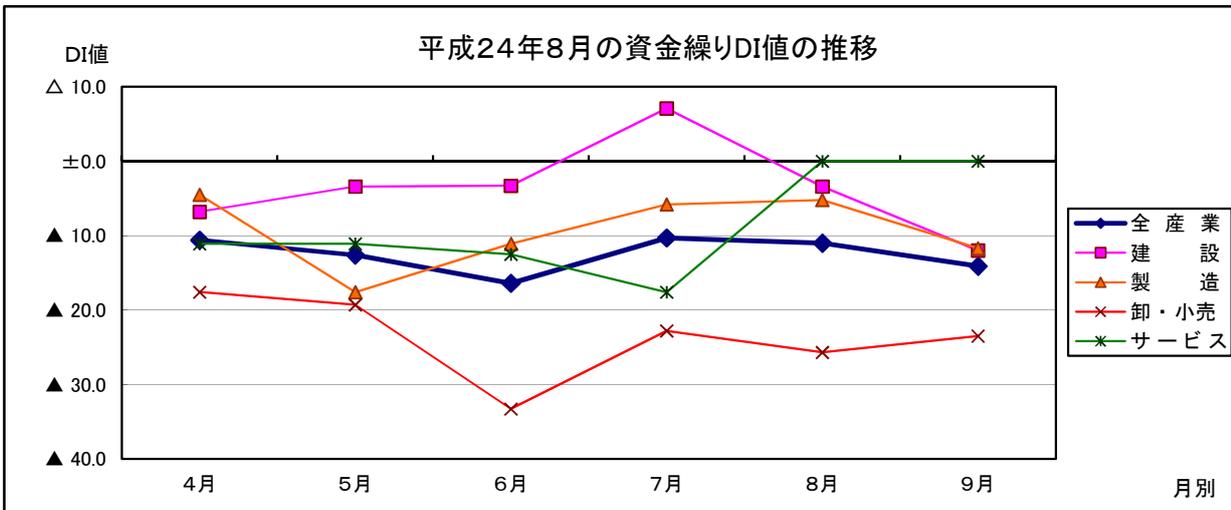
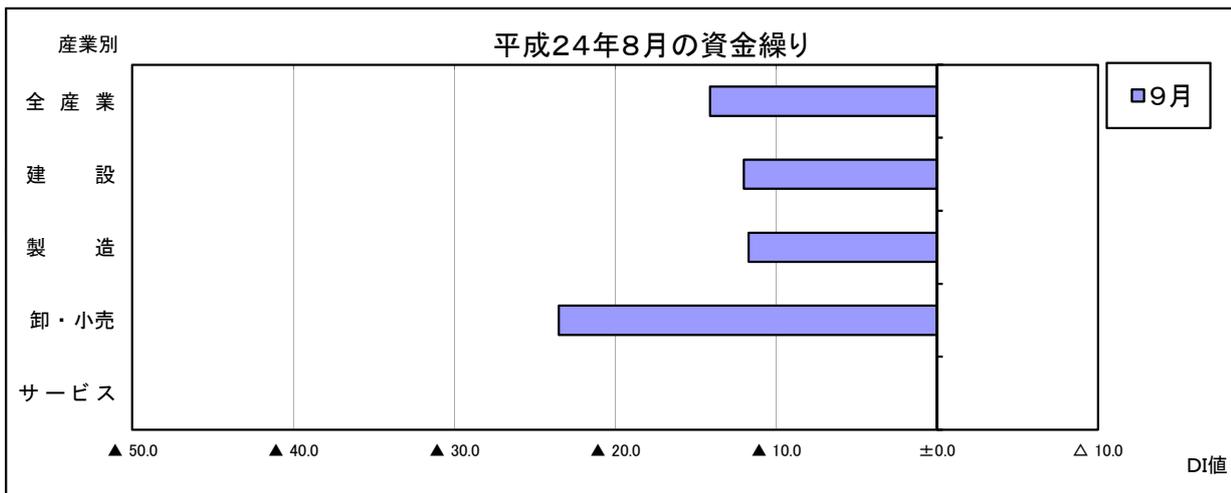
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲23.5(同▲25.7)である。変らない業種は、サービス業±0.0(±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲12.0(同▲3.4)、製造業▲11.7(同▲5.2)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.5(前月水準▲8.0)となり、マイナス幅が1.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業4.0(同▲3.4)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.8(同▲10.5)、卸小売業▲17.6(同▲20.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同11.7)である。

平成24年9月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成24年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲10.6	▲12.6	▲16.4	▲10.3	▲11.0	▲14.1	▲6.5(▲8.0)
建設	▲6.8	▲3.4	▲3.3	△7.1	▲3.4	▲12.0	△4.0(▲3.4)
製造	▲4.5	▲17.6	▲11.1	▲5.8	▲5.2	▲11.7	▲5.8(▲10.5)
卸・小売	▲17.6	▲19.3	▲33.3	▲22.8	▲25.7	▲23.5	▲17.6(▲20.0)
サービス	▲11.1	▲11.1	▲12.5	▲17.6	±0.0	±0.0	±0.0(△11.7)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 40.2	▲ 1.0	▲ 45.6	▲ 13.0	▲ 19.5	▲ 18.4	▲ 4.3	△ 2.1
建設	▲ 28.0	△ 8.0	▲ 44.0	▲ 20.0	▲ 32.0	▲ 28.0	△ 16.0	△ 20.0
製造	▲ 23.5	△ 5.8	▲ 11.7	△ 5.8	±0.0	▲ 5.8	▲ 29.4	▲ 23.5
卸・小売	▲ 64.7	▲ 20.5	▲ 64.7	▲ 26.4	▲ 17.6	▲ 20.5	▲ 11.7	▲ 5.8
サービス	▲ 25.0	△ 18.7	▲ 43.7	△ 6.2	▲ 25.0	▲ 12.5	△ 6.2	△ 18.7

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 36.9	▲ 13.0	▲ 14.1	▲ 6.5
建設	▲ 28.0	▲ 12.0	▲ 12.0	△ 4.0
製造	▲ 23.5	▲ 5.8	▲ 11.7	▲ 5.8
卸・小売	▲ 58.8	▲ 26.4	▲ 23.5	▲ 17.6
サービス	▲ 18.7	△ 6.2	±0.0	±0.0

【平成24年9月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況		業種	
建設業	柏は被災地ということで、復興支援住宅エコポイント10月末締切を活用して耐震改修、断熱改修工事を狙っていきたい	復興支援 エコポイント 耐震改修	一般土木建築工事業	
	9月は上半期末という事もあり忙しく仕事があったが月末になっても来月の見込みが不足している状態。11月下旬からの見込みはあるが、それまではないと今年は極端な受注状況。震災関係は落ち着いてきており依然として新築が少ないように思われる	先行き不透明 新築工事減少	石工れんがタイルブロック工事業	
	残暑が長引き売上が伸びたが電気料金の値上がりの影響が出始めた。省エネ対応の器具・工事で売上を伸ばす	残暑 売上増加 電気料金値上がり 省エネ	電気工事業	
	大きい変化はありません	業況不変	一般土木建築工事業	
	年末にかけて受注は増加している	受注増加	塗装工事業	
	見積もり依頼はあるが希望単価をきくとかなり安い単価で交渉される。相変わらず材料は高騰、施工単価は下落である。ゼネコンの単価に合わせられない状態。仕事の見通しはあるものの材料との兼ね合いがかなり厳しい状況で、同業者他業者とともに仕事をとるしかない。他社も先行き不安だと話しており、利益を出す工事よりも赤字にならないようにするしかない。	低単価 材料高騰 施工単価下落 先行き不安	その他の職別工事業	
	震災以降、節電意識の高まり・電気のみ依存する暮らしの見直しが進み、戸建住宅での都市ガス採用率が81.8%（京葉ガス供給エリア内実績）平成20年レベルに回復している	節電 ガス利用率回復	ガス業	
	一気に涼しくなり年末の大掃除に向けて畳裏返しや張り替え工事の注文が増えてくれることを祈ります	年末への期待	内装工事業	
	製造業	銀行も苦しいのかも知れないが会社の融資枠を縮小して個人の金利を高く見積もり個人融資に誘導している感がある	融資枠縮小 個人融資誘導	印刷業
		輸出の減少がみられるとともに円高による値引き要請が続いている	輸出減少 円高 値引き要請	一般産業用機械・装置製造業
8月以降仕事が多く出てきている。短納期が多いが年末までは仕事がありそうです		仕事量増加 短納期	建築用・建設用金属製品製造業	
0				
卸小売業	秋物残暑により出足不調。早くも秋物処分に腐心しているが、例年業界では8月より9月の方が売上が伸びない店が多くなってきている。8月セールで売り上げが伸び9月は売上が出づらい	残暑 秋物不調 売上不振		
	団塊世代の引退が現実的になってきており幹部候補としての人材が見当たらない	団塊世代 人材不足	書籍・文房具小売業	
	残暑が長く続き客足減少後半涼しくなるも、天候変わりやすく人の流れも少ない、今後は政局がどうなるのか不安材料多く消費税の段階的な増税も価格表示に費用負担が心配	残暑 客足減少 政局不安 先行き不安 消費税	時計・眼鏡・光学機械小売業	
	9月度は、残暑が厳しかったことに加え、例年より先物買い傾向が薄く、ジャストシーズン購入傾向が多みられたことから秋物の動きが鈍く苦戦した。中旬以降は台風の影響から天候が不安定だったことから、来店客数は伸び悩んだものの、気温の低下にともない秋物商材に動きがみられ売上高は若干盛り返した。9/26からは開業20周年記念「Station Mall Festival」を開催、限定商品やプレゼントキャンペーンなど購買意欲を高める販促などを実施。告知を強化して集客及び売上に繋げていく	残暑 天候の影響 秋物売上鈍化 イベント開催	その他の各種商品小売業	
	猛暑で入出が少なかったうえ、「夏」が予想以上に長かった。このため秋物の出足が鈍く、短期間では取り戻しが難しい	残暑 秋物不調	その他の各種商品小売業	
	9月前半は昨年より残暑が厳しく売上に影響。後半は若干涼しくなり持ち直しましたが1カ月トータルで昨年よりは売上減少です	残暑 売上減少	菓子・パン小売業	
	とても暑い9月でした。街を歩く人もまばらだったような、暑い夏が終わり涼しくなり始めると例年忙しくなる。期待しています。楽天的かな？	残暑 先行きへの期待	菓子・パン小売業	

【平成24年9月の業種別業界内トピックス】

	弊社は柏公設市場にテナントを置く立場として、多数空きテナントに対して積極的な募集をかけられていないこと、一般消費者、地域の飲食店の方に集客アピールできていないこと。以上が大局的にみて行政の怠慢だと感じています	空きテナント対策 集客アピール	農畜産物・水産物卸売業
	暦通りの季節感になかなかならないと思っていたら彼岸の中日を過ぎたあたりより冷房いらずの気温になり、食欲の秋と望みたいところだが、現状は野菜においては引き続き入荷減、単価安、果実は入荷減高値取引で推移しています。10月は各地イベントが予定されており、消費者の購買力に期待して買い出し人への売り込みを周り、安全安心な商品を提供していきたい	残暑 野菜入荷減 果実高値 安心安全	食料・飲料卸売業
	震災後は顧客のオール電化移行が収まっていたが、調査の結果当社の顧客数減少が今年は多く、やはりライバルは同業他社よりもオール電化であるといえるのではないかと。7月を底に値上がりしていたLPガス仕入単価が横ばいになったが収益見直しに大きな狂いが生じ経営者を落胆させている。一部大手他社は10月から値上げとの情報もあるが、当社はまだ価格はいじらず頑張るつもり	オール電化移行減少 顧客数減少 LPガス仕入単価横ばい 収益見直し 価格転嫁	燃料小売業
	温浴事業の水光熱費削減の為に改修工事を実施し電気ガスの使用量は削減できたが仕入単価が大幅に上昇したため経費的には補えきれなかった	改修工事 光熱使用料削減 仕入単価上昇	公衆浴場業
サービス業	8～9月2カ月連続で前年割れであった。次月から12月商戦の企画を他チェーン店などは既に打ち出しているのを知り、値段だけではないと思いますが色々考えさせられる	売上減少 12月商戦	酒場・ピヤホール
	宿泊マーケットは変わらない中で、同業の新規参入によりエリア全体の稼働が落ちると共にinetでの安売りにより一室単価も下がり更に売り上げの減少につながる。清掃費、リネン費を含めた原価が上がると共にinet経路での予約が多くなり集客手数料が上がるなど諸経費が上がり利益を圧迫する。宴会は企業の宴席の減少により厳しい状況が続く	同業者新規参入 稼働率低下 ネット予約 売上減少 経費増加 厳しい業況	ホテル
	個人需要は夏が終わって前年同期比10ポイントほど伸びず。法人需要は最近の中国情勢、韓国情勢の影響が出始めてきた	個人需要伸び悩み アジア情勢影響	旅行業
	お客様が少しずつですが増えています。ただ土地の下落が続いており、お客様の購買意欲が低い状態です。やはり放射能汚染の風評被害が影響しています	来客数増加 土地価格下落 購買意欲低下 風評被害	不動産管理業
	賃貸住宅事業は数か月前の転出ラッシュとは逆に入居者が増えました。風評が薄れたのと地道な除染が功を奏したのではないかと思います	入居者増加 除染	不動産賃貸業
	子どもを抱える家庭の市内からの転出が一連の原発事故・ホットスポットの影響で未だ続いている。転入についても控える傾向もあるとの事です。一定の除染作業が終了、もしくは安全が確認できた段階で公の機関から安全宣言やPRが必要と思います	風評被害 転入減少傾向 除染 安全宣言	不動産賃貸・管理業

### ◎残暑

- ・ 残暑が長引き売上が伸びたが電気料金の値上がりの影響が出始めた。省エネ対応の器具・工事で売上を伸ばす 電気工事業
- ・ 猛暑で人出が少なかったうえ、「夏」が予想以上に長かった。このため秋物の出足が鈍く、短期間では取り戻しが難しい その他の各種商品小売業
- ・ とても暑い9月でした。街を歩く人もまばらだったような、暑い夏が終わり涼しくなり始めると例年忙しくなる。 菓子・パン小売業
- ・ 暦通りの季節感になかなかならないと思っていたら彼岸の中日を過ぎたあたりより冷房いらずの気温になり、食欲の秋と望みたいところだが、現状は野菜においては引き続き入荷減、単価安、果実は入荷減高値取引で推移しています。 食料・飲料卸売業

### ◎売上減少

- ・ 秋物残暑により出足不調。早くも秋物処分に腐心しているが、例年業界では8月より9月の方が売上が伸びない店が多くなってきている。8月セールで売り上げが伸び9月は売上が出ずらい 婦人・子供服小売業
- ・ 9月度は、残暑が厳しかったことに加え、例年より先物買い傾向が薄く、ジャストシーズン購入傾向が多くみられたことから秋物の動きが鈍く苦戦した。中旬以降は台風の影響から天候が不安定だったことから、入店客数は伸び悩んだものの、気温の低下にともない秋物商材に動きがみられ売上高は若干盛り返した。 その他の各種商品小売業
- ・ 9月前半は昨年より残暑が厳しく売上に影響。後半は若干涼しくなり持ち直しましたが1カ月トータルで昨年よりは売上減少です 菓子・パン小売業
- ・ 宿泊マーケットは変わらない中で、同業の新規参入によりエリア全体の稼働が落ちると共にinetでの安売りにより一室単価も下がり更に売り上げの減少につながる。 ホテル

### ◎先行き不安

- ・ 仕事の見通しはあるものの材料との兼ね合いがかなり厳しい状況で、同業者他業者とともに仕事をとるしかない。他社も先行き不安だと話しており、利益を出す工事よりも赤字にならないようにするしかない。 その他の職別工事業
- ・ 残暑が長く続き客足減少後半涼しくなるも、天候変わりやすく人の流れも少ない、今後は政局がどうなるのか不安材料多く消費税の段階的な増税も価格表示に費用負担が心配 時計・眼鏡・光学機械小売業

## 平成24年9月のCCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲36.9に対し、「CCI-LOBO」が▲26.6で、柏の方がマイナス幅が10.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・建設業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲40.2に対し、「CCI-LOBO」が▲21.6で、柏の方がマイナス幅が18.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・建設業でいずれも10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲45.6に対し、「CCI-LOBO」が▲24.0で、柏のほうマイナス幅が21.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・建設業・サービス業でいずれも10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲19.5に対し、「CCI-LOBO」が▲19.1で、柏の方がマイナス幅が0.4ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業・サービス業・卸小売業。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲4.3に対し、「CCI-LOBO」が0.2で、柏の方がマイナス幅が4.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業・サービス業で、製造業・卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲14.1に対し、「CCI-LOBO」が▲14.3で、柏の方がマイナス幅が0.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。

# 平成24年9月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 36.9	 28.0	 23.5	 58.8	 18.7
CCI LOBO	 26.6	 16.6	 27.8	 40.3	 22.5

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 40.2	 28.0	 23.5	 64.7	 25.0
CCI LOBO	 21.6	 7.9	 25.5	 34.1	 16.4

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 45.6	 44.0	 11.7	 64.7	 43.7
CCI LOBO	 24.0	 17.0	 27.7	 31.4	 20.3

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 19.5	 32.0	 ±0.0	 17.6	 25.0
CCI LOBO	 19.1	 25.1	 17.3	 13.9	 20.7

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 4.3	 16.0	 29.4	 11.7	 6.2
CCI LOBO	 0.2	 3.1	 9.5	 3.6	 6.6

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 14.1	 12.0	 11.7	 23.5	 ±0.0
CCI LOBO	 14.3	 17.6	 12.9	 19.0	 10.9

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測 (9月速報)

調査期間：平成24年9月13日～20日

調査対象：全国の417商工会議所が3065業種組合等にヒアリング調査を実施

**全国の業況**  
業況DIは悪化、先行きは若干改善するも懸念材料は多い

9月の全産業合計の業況DIは、26.6と、前月から2.8ポイントの悪化。海外経済、とりわけ中国経済の減速に伴う輸出の減少や、超円高等を背景とした取引先の海外移転・調達の加速により、受注の減少が続く。また、穀物や原油価格の高騰に伴い仕入価格が上昇しているものの、中小企業においては価格転嫁は難しく収益を圧迫。経営環境はさらに厳しさが増している。

先行きについては、先行き見通しDIが24.7(今月比+1.9ポイント)と、改善する見込み。秋の観光シーズンを迎えるほか、秋物商戦の本格化が見込まれることなどが要因。一方で、超円高の定着や、穀物・原油価格の高騰、エコカー補助金終了による内需の減速等、先行きに対する懸念材料も多い。

産業別にみると、業況DIは、建設業、卸売業で改善、その他の3業種は悪化。

各業種から寄せられた特

徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「省エネ住宅の問い合わせが増加しており、今後の受注増を期待」(建築工事業)、「大手住宅メーカーが進出。地元の技能士が、大手からの仕事を優先させている」(一般事業)、「携帯電話会社が基地局設置に伴う発注を増加させており、業況は好転」(電気通信工事業)

【製造業】「エコカー補助金終了に伴う減産により、業況は悪化。今後の収益確保が課題」(自動車部品製造業)、「大口取引先である鉄鋼メーカーの輸出が伸び悩み、自社も影響を受けている。国内向け製品の受注量は堅調だが、コストダウン要請が強い」(煉瓦製造業)、「ウォールナットやトチノキ等の人気木材の価格が上昇しているため、海外調達に切り替えて仕入価格を抑制している」(家具製造業)

【卸売業】「防水・防蝕関連の建築資材が売上の主力だったが、新たに、橋梁・河川用の土木資材分野に進出」(建築材料卸売業)、「売上

は増加しているものの、穀物価格の高騰により加工食品の仕入価格は上昇しており、採算の改善には至らない」(食料品卸売業)、「大手ホームセンターが進出。建設業等では仕入先を低価格なホームセンターにシフトさせており、自社の経営は厳しくなっている」(塗料卸売業)

【小売業】「残暑が厳しく、秋物衣料の出足が鈍い」(百貨店)、「電気料金が3割増。負担が重く、節電での対応に限界が来ている」(総合スーパー)、「食料品の品揃えや価格面で、近隣に展開するコンビニ等との競争が激化。さらに値上げせざるを得ない」(食料品等販売)

【サービス業】「燃料価格が再び上昇始めており、経営に影響が出ている」(運送業)、「発注はあるものの、イベントあたりの予算削減が進んでおり、業況はなかなか回復しない」(イベント企画・運営)、「中国人観光客の増加を期待したが、キャンセルが相次ぎ、先行きは不透明」(旅館業)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
4月	▲16.8	▲24.0	▲9.5	▲17.3	▲27.5	▲9.6
5月	▲17.5	▲24.9	▲7.5	▲14.0	▲29.3	▲13.8
6月	▲21.3	▲19.1	▲13.7	▲14.5	▲34.2	▲21.5
7月	▲25.2	▲25.8	▲18.1	▲23.6	▲43.1	▲15.6
8月	▲23.8	▲19.6	▲21.9	▲27.3	▲34.3	▲16.6
9月	▲26.6	▲16.6	▲27.8	▲19.3	▲40.3	▲22.5
見通し	▲24.7	▲23.6	▲26.8	▲14.9	▲31.1	▲21.9

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI